

牧師所感： 2024年度の抱負を語る

2024年を迎えるこの世の人々も、私自身も同じく、ロシアとウクライナ、イスラエルとハマスの平和を望むであろう。去年一年は、戦争で明け暮れた一年であった。思うに 戦争をする当事国の人々は、言葉に言い尽くせない 悲しみと怒りに燃え尽きた一年であったに違いない。だが 私共 非戦国民は、戦争による 悲しみと痛みを経験することはない。然るに 非戦国の私共は 今年こそは 戦争が止み、平和を取り戻す国であるように祈る。

ところが 私共の期待は、新年早々から碎かれてしまった。日本国の中陸地方都市に新年早々、強い地震 マグニチュード 7.5 以上の強震が襲い、126人の人々が犠牲になり、大勢の負傷者を出した。天変地異による出来事で、亡くなられた犠牲者に対して、哀悼の意を表明する。

ところで 上で述べた戦争が終るどころか、新しい戦争が起るかも知れない。中東の国々での 不穏の気配、数年前に起った I S のテロ事件を思い返す。日本のジャーナリスト 後藤 健二さんが犠牲になった事件。尊い命を奪われたことを 今も悲しんでいる。以上のような 不穏な世の中にあっても、一抹の希望を抱くのが 人生だろう。

さて 2024年を迎えた筆者は、祈りの時、ふと、昔の出来事が思い起こされた。その出来事とは、東京の町田に所在する 桜美林大学で、14年間 非常勤講師として働いた経験を持つ。1989年～2003年 退職の時迄、毎年毎年 春の新学期には、辞令状を渡された。そして その年の一年、実績が疑わると 辞令を受けられなくなる。つまり 定年前の退職である。厳しい査定である。よくも 14年間、定年退職まで働いたものだと、神に感謝した。定年退職後 学校では、14年間の授業の実績を認めて、感謝の記念として 置時計を贈られた。

然るに 牧師たる者、今年 2024 年の牧会で、次の年の勤務を保証する辞令を受け取れる様、最善を尽くす覚悟で 牧会に励みたい。

神よ！ 今年（2024年）一年を祝し給え。キリストに在って、アーメン。